

## 弘前大学医学部附属病院で診療を受けられた皆様へ

当院では下記の臨床研究に用いるため、患者さんの試料・情報を利用させていただいておりますので、お知らせいたします。

臨床研究名称： 糖尿病によるエピジェネティック変化は RECK 発現低下を介して膵癌の予後を増悪するか

### 研究の目的

膵臓癌において糖尿病は腫瘍発生の原因となるばかりではなく、予後を悪くするとの報告がありますが、その原因は未だに不明な部分が多いです。その原因として私たちは RECK というタンパク質に着目しました。RECK タンパクには腫瘍を抑制する働きがあり、糖尿病を合併した腫瘍ではこのタンパクが低下することで、膵臓癌がより悪性化する可能性があります。この RECK タンパクの低下には、糖尿病による DNA や RNA の変化が関与している可能性が考えられます。私たちは当院で手術を受けられた膵臓癌患者様の手術標本を用いて DNA および RNA を解析し、糖尿病による DNA や RNA の変化がもたらす RECK タンパクへの影響を解明し、糖尿病が膵癌の予後を悪化させる原因を明らかにします。

研究実施期間： 実施許可日 ~ 2026 年 3 月 31 日

対象となる方： 2014 年 1 月 1 日 ~ 2020 年 12 月 31 日までの間、当院消化器、乳腺、甲状腺外科を受診し、膵癌と診断され手術を受けられた方。術前化学療法を受けられた方は除外されます。

### 利用させていただきたい試料・情報について

(他機関に提供する場合、提供先機関の名称及び当該機関の研究責任者氏名含む)

当院のカルテに記録されている情報のうち、年齢、性別、BMI、糖尿病既往の有無、糖尿病罹患期間、空腹時血糖値や HbA1c 値、CA-19-9 値といった血液検査データ、腫瘍径、腫瘍部位、臨床病期、術前化学療法施行の有無、病理病期、術後補助化学療法施行の有無、転帰、生存期間、再発の有無、再発までの期間について、標記研究のために利用します。また、手術標本の DNA および RNA を解析し、糖尿病による腫瘍組織の DNA 変化が膵癌の予後を悪化させる原因かどうか、統計解析的手法を用いて比較することで明らかにしたいと思っております。

なお、利用に当たっては氏名、住所、電話番号、患者番号等個人を特定できる情報を削除し、本研究のための固有の番号を付して(これを匿名化といいます)行います。

研究成果については、学会発表や論文投稿等の方法で公表されますが、その内容から対象者個人が特定される事はありません。研究から得られた個別の結果については原則としてお答えしませんが、希望される方は下記連絡先までご連絡ください。

本研究課題について、より詳細な内容をお知りになりたい場合や、試料・情報の利用に同意いただけない患者さん/その代理人の方は、以下の連絡先までご連絡ください。

研究への利用に同意いただけない場合、当該患者さんの試料・情報については対象から除外します。ただし、連絡いただいた時点で既に研究成果公表済の場合は、該当者のデータのみを削除する等の対応は出来かねますので、ご了承願います。

本件連絡先

消化器、乳腺、甲状腺外科 丹場太陽 電話:0172-39-5079/メール:hiroaki-tamba-0807@hirosaki-u.ac.jp